
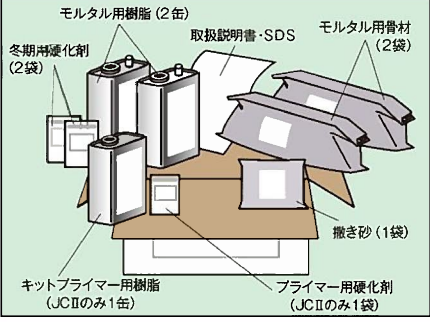


特殊舗装補修材の比較表

名称	スパークマット	ドーロガードキットAS II
特長	<p>高粘度改質アスファルトと補強用碎石を原料とするマット型のひび割れ補修材です。施工方法は専用接着材を製品に塗布して貼り付けるだけなので、熟練作業員が必要なく、路面における作業時間の短縮も可能です。また、専用接着剤によって、補修面との高い付着性引張強度を発現し補修後も良好な供用性を維持します。</p>	<p>ドーロガード工法は、速乾性耐久補修材『メタクリル樹脂モルタル』（ドーロガード）と、浸透性メタクリル樹脂（パーミタイト）の組み合わせで、土木構造物の補修や補強、耐久性の向上を行う工法です。</p> <p>取扱簡便な材料で高耐久性能を有し、またその性状から即日道路開放が出来る道路コンクリート構造物補修工法です。</p>
外観		
販売価格	<p>スパークマット: ¥8,000/㎡(厚さ5mm) 専用接着剤: ¥460/㎡ 共に送料別途</p>	<p>¥15,800/㎡(厚さ10mm)</p>
材質	<p>高粘度改質アスファルトと骨材の混合物(アスファルト舗装と同類の材料)</p>	<p>メタクリル樹脂と骨材の混合物</p>
長所	<ul style="list-style-type: none"> ●高い耐久性でひび割れを解消 施工後にひび割れの再発が発生しません。 ●短い作業時間 作業が「塗って貼るだけ、養生時間必要なし」なので、作業帯の設置が不要。いままで夜間で行っていた補修が昼間、信号等の合間で作業可能。 ●作業員が安全 路上における作業時間が短く、重機なども使用しないため作業員の安全を確保できます。 ●誰にでも施工が可能 重機や専用機械が必要なく、作業も簡単なので、誰にでも施工が可能です。 ●コストの低減 ひび割れの段階で、早めに補修することで、ライフサイクルコストの低減を図ることができます。 	<ul style="list-style-type: none"> ●硬化特性 1時間以内で硬化する短時間硬化性と-10℃まで硬化する低温硬化性。 ●高耐久性 耐荷重性、耐衝撃性に優れております。 ●高耐候性 耐候性に優れるメタクリル樹脂を主成分としており、屋外用途に最適です。 ●簡易施工性 樹脂液と骨材を混ぜて塗るだけ、手軽に簡単に施工できます。
短所	<ul style="list-style-type: none"> ●ポットホールの補修時、穴埋めに使用した常温合材が流動する可能性もある為、粘着性の高い常温合材を使用する事を勧める。 ●重ね貼りが可能だが、舗装段差による、振動の解消を目的とする使用には適さない。 ●交差点部等、車のタイヤを回すような箇所では剥離する恐れがあるので使用には適さない。 	<ul style="list-style-type: none"> ●下地がアスファルトのような、気温・荷重により変動する箇所の場合、下地に追従することが出来ず、剥離をおこす。 ●1時間以内で硬化し交通開放が可能だが、作業帯の設置が必要。
用途	<ul style="list-style-type: none"> ●ひび割れ補修(亀甲状ひび割れも可) ●段差修正、 ●ポットホールの補修(常温合材との組み合わせ) ※コンクリート舗装にも適用可能 ※縁石等の取合部継ぎ目からの防草への対応可能 	<ul style="list-style-type: none"> ●道路の段差修正、わだち堀れ補修 ●橋梁のジョイント補修や床板補修 ●橋梁伸縮装置の高上げ ●新交通、モノレール等の軌道表面の薄層舗装 ●空港エプロン部、滑走路部の補修
施工方法	<p>材料に接着剤を塗布して施工箇所に貼り付ける。</p>	<p>材料(骨材と樹脂)を混合し、コテ等による均しと仕上げを行う。</p>
1セット分の施工に要する時間	<p>5分(施工のみ)</p>	<p>20分(材料の混合+施工)</p>
熟練作業の必要性	<p>熟練作業は必要ない。</p>	<p>コテ仕上げ作業に関して熟練が必要。</p>

舗装の小規模補修に使用される補修材のコスト比較表(従来補修との比較)No.2

(施工規模は10m²とする)

(平成30年度 参考価格)

補修方法	新技術					従来(特殊的)の技術				
製品名	スパークマット					ドーロガード工法				
材料費+施工 労務費+機材 価格	名称	数量	単位	単価	金額	名称	数量	単位	単価	金額
	5mmとする					平均 10mmとする				
	スパークマット	10	m ²	8,600	86,000	ドーロガードキットASⅡ	10	箱	15,800	158,000
	専用接着材	2	缶	2,300	4,600	普通作業員	2	人	20,200	40,400
	普通作業員	2	人	20,200	40,400	左官職人	1	人	26,700	26,700
	工事車両	1	台	4,000	4,000	工事車両	2	台	4,000	8,000
	小計				135,000	小計				233,100
	直接工事費				135,000	直接工事費				233,100
	1m ² 当たり単価				13,500	1m ² 当たり単価				23,310
※材料運賃含む価格										
コスト判定	◎(1.00として)					×(1.7)				
特記評価	コスト面では従来技術と比較して最も安価であり、施工時間も短く、施工直後即解放できるメリットがある。工事規制も短く、作業員もごく小人数で施工できる。					コスト面では新技術と比較して約2.0倍で高価であり、施工時間も長く、施工直後、材料硬化をさせる時間が必要な為即解放できないデメリットがある。ゆえに工事規制が長くなる。材料の仕上げ作業に必要な特殊な技能が要求される。				